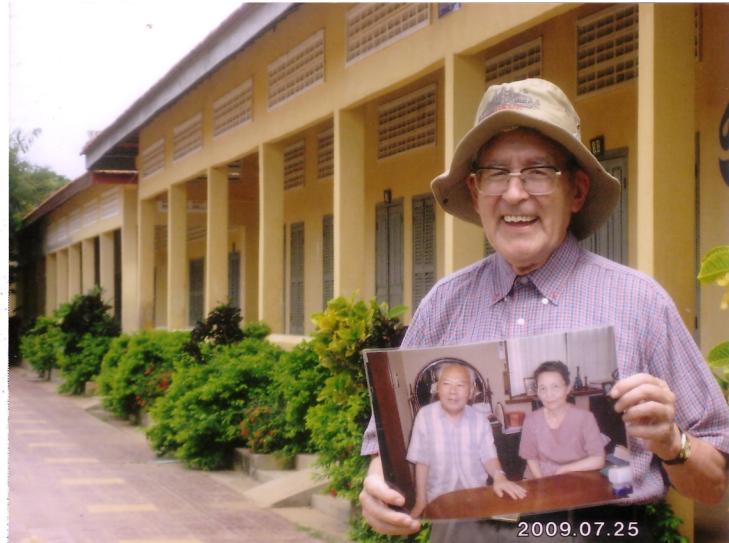


恩人の写真を持つカンガス神父



## 二千八百万円の寄付

2009.07.25

カンボジアの貧しい人たちを支援するバツターンバン友の会は二〇〇一年に結成された。いろんな分野で支援活動をしているが、最も大きな事業は学校の建設で、これまでに十三の学校を建てた。今回、そのうちの一つを訪れた。

団長のカンガス神父は学校に到着するとカンバンの中からラミネート加工された一枚の写真を取り出し、こつそり私に見せてくれた。「この恩人のお陰でこの学校を建設することができました」と言う。

写真には一組の老夫婦が写っていた。カン

ガス神父が「バツターンバン友の会」を結成して寄付を呼びかけると、この老夫婦は会員として寄付を続け、その額は二千八百万円に達したという。

「〇〇さん夫婦は決して金持ちはあります。普通のサラリーマンで、退職後は質素な生活を送られ「私たちには子どもがいません」から」と、これだけの寄付をしたのだ。

いくら子どもがいないとはいっても、二千八百万円の大金を全く知らない他者のために寄付するなどできることがないという。そして、本人の希望で名前も公表していない。

この老夫婦は一度もカンボジアを訪れたことはない。そこでカンガス神父はカンボジアを訪れる際はカンバンの中に老夫婦の写真を入れてくる。

「清貧、貞潔、従順」の誓願を立て、生涯独身で神のため、すなわち他人のために働き、やさしく誠実で誰から

ガス神父が「バツターンバン友の会」を結成して寄付を呼びかける者を引きつけ、老夫婦のような行為を生む。スタディ・ツアーリーも今回で実に七回も参加し、新しい参加者の世話を中の年女性が二人いることでも神父への信頼の厚さがわかる。

カンガス神父は「もちろん大金の寄付は有り難い。でも金額の大小に関係なく、支援して下さるすべての人が恩人です」と言う。

聖書に出てくる「やもめの献金」の話を思い出した。

金持ちがお金を献金箱にたくさん入れた。

貧しいやもめがわずかではあるが持っている

すべてを献金した。

イエスは「貧しいやもめは誰よりもたくさん入れた。金持ちは有り余る中から入れたが、やもめは乏しい中から自分の持っている

すべてを入れたからである」と。

我々はとかく金額の大小で評価しがちだ。

貧しい村の週に一度の給食



2009.07.21